

# Condesa Carmen V

## [基本事項]

ミキサーのON / OFFを行う前に、スピーカー、アンプなどの電源を切っておくことをお勧めします。ミキサーの電源を入れたり切ったりすると、回路に電流 / サージが流れ、「プツ」というポップ音が発生します。

ミキサーはディスクリートクラスA回路の性質上、ウォームアップに時間がかかり、すべての電圧が安定するまでに5～10分を要します。ミキサーをすぐに使用することに問題ありませんが、しばらく時間を置くことをおすすめします。Carmen Vのミキサーは触ると暖かい感じがしますが、これはクラスA回路の典型的なもので異常はありません。ミキサーには一定の電流が流れているので、十分な換気とミキサーの周囲に空気の通り道を確保してください。

リニアPSU（電源）には110 - 230v選択スイッチがあります。接続して電源を入れる前に、正しい電圧（日本では110vに設定）に切り替わっていることを確認してください。間違った電圧をリニアPSUに流すとヒューズが切れてしまいます。このような場合は、PSU内の小さなコンパートメントにある予備のヒューズと交換することができます。次に使用する人のためにも予備のヒューズを使った際は必ずご申告ください。※ヒューズ代が請求されることはありません。

リニアPSUは非常に熱くなりますのでご注意ください。これは、すべてのコンポーネントが高温になる部品であり、外側が熱収縮の役割を果たしているためで、完全に正常な状態です。リニアPSUをレコードから遠ざけ、土台の安定した風通しの良い場所に置くことをおすすめします。

直射日光や、電源、アンプ、ヒーターなどの熱を発生する機器から離れた場所に設置してください。操作や保管の際には、過度の汚れ、ほこり、熱、振動から保護してください。タバコの灰、飲み物、煙、特に喫煙の煙がかからないようにしてください。共振や振動のある場所に電源ユニットを設置しないでください。

## [セットアップ]

Carmen Vをセットアップする最良の方法は、マスターとフェーダーのポットをユニティーゲインに設定することです。マスターポットのユニティーゲインは4.5（すべてのポットの最初のドットは「0」なので、実際には5番目のドットと6番目のドットの間）にあります。個別のフェーダーポットのユニティーゲインは7.5（ここでも最初のドットは「0」なので、実際には8番目と9番目のドットの間）になります。

ご自宅のシステムでマスターポットを4.5に設定するのが少々うるさく感じる場合は、マスターを少し戻すか、アンプやスピーカー側で音量調整してください。マスターを5の位置よりも高く設定する必要はありません。もしそうだとしたら、同じくアンプやスピーカーなど、信号経路にある他の増幅装置の音量を調整してみてください。

クラブ環境や大きなステージで（PAが全体的なマスターレベルを管理している）Carmen Vをセッティングする場合、ミキサーのマスターを4.5に設定したままにしておいて、あとはPAがミキシングデスクで作業を行います。

フェーダーポットを7.5程度に設定することで、各チャンネルに十分なヘッドルームを確保することができます（ゲインは12dB程度）。トラックのマスターリングは制作された時代によって変化しますし、異なるフォーマット（レコードやデジタルファイル）でも変化するため、DJにとって十分なヘッドルームを確保することは非常に重要です。

フェーダーポットをフルポジションにしてしまうと、マスター以外にヘッドルームがない状態になってしまい、トラック間に音量差がある場合、ミキシングが少し難しくなります。フェーダーポットには2つの機能があると考えてください - 0から7.5までがフェーダー機能、7.5以上はゲイン調整機能です。

VUメーターはマスターアウトプットに接続されています。マスターの出力レベルを計測しますが、プリマスターのミックスレベルや各チャンネルのレベルは計測されません。マスターのVUメーターは、システムをオーバードライブさせないためのガイドとして使用することができます。

赤色に点灯してもオーバードライブになったり、ミキサーにダメージを与えたりすることはありません。VUメーターは0vu = 0dbmでキャリブレーションされています。ミキサーをよりダイナミックに使用するために、アクティブモニターの感度やゲインを下げることをお勧めします（使用している場合）。アンプやスピーカーがペアになっている場合、アンプのレベルや入力の感度を調整することができます。

ミキサーは内部で信号をクリップさせたり歪ませたりすることはありませんので、実際にはレベルをかなり高く設定することができますが、良いサウンドと使いやすさを実現するためには、上記の指示に従ってミキサーのレベルを設定することをおすすめします。マスターとフェーダーの両方のポットでレベルを最大にした場合、ミキサーの出力に対応するように設計されていないスピーカーでは損傷する可能性（この場合、クリッピングや歪みの原因となるのはスピーカーです）がありますので、ご注意ください。

REC OUT（録音出力）は非常に大音量になっていますので、ミックスを録音する場合は、お使いのレコーディングデバイスの感度を下げてください（入力ゲインを下げてください）。録音機器が固定されていて、RECレベルに対応できない場合は、レコーダーをブースOUTに接続することで、マスターとは別のレベルコントロールが提供されます。